

令和 6 年度

丹波県民局当初予算（案）の概要

兵庫県丹波県民局

# 令和6年度丹波県民局施策体系表

[重点目標Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ]

<b>I 「森」の保全と活用 ー守り、活かすー</b>		<b>4,035</b> 千円 ①
	・ 丹波の里山づくりの促進 (アクティブ・フォレスト・プロジェクト)	1,731 . . . P 1
拡	・ 丹波の環境パートナーシップづくり	1,093 . . . P 2
	・ 不法投棄をさせない! きれいな丹波づくりの推進	211 . . . P 3
	・ 桜つつみ回廊の美観保全	1,000 . . . P 4
<b>II 集落、まちの創生ー居心地の良い「場」の創出ー</b>		<b>15,223</b> 千円 ②
	・ 地域再生活動の次世代への承継	566 . . . P 5
	・ 地域農業の担い手の育成・農地のフル活用	2,000 . . . P 6
	・ 地域でため池を守るプロジェクト	1,000 . . . P 7
	・ まちの拠点創造プロジェクト	5,100 . . . P 8
新	・ JR加古川線維持・利用促進事業	1,498 . . . P 9
	・ JR福知山線の利用促進	1,300 . . . P 10
	・ 学生等による地域貢献活動の推進	1,500 . . . P 11
	・ 地域防災力の充実強化事業	2,259 . . . P 12
<b>III 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり</b>		<b>52,287</b> 千円 ③
	・ 先端技術等を活用したスマート農業の推進	3,400 . . . P 13
	・ 兵庫丹波ブランド農産物の生産振興強化	3,547 . . . P 14
	・ 兵庫丹波ブランド農産物の魅力発信	5,500 . . . P 15
拡	・ 丹波の地酒魅力向上事業	750 . . . P 16
	・ 食文化ツーリズム・プロジェクト	200 . . . P 17
	・ 四季の丹波「コト体験」の充実	2,420 . . . P 18
新	・ 誘客促進に向けた二次交通の整備	3,200 . . . P 19
	・ 観光情報の戦略的発信	5,500 . . . P 20
拡	・ 恐竜化石フィールドミュージアムの推進	4,874 . . . P 21
	・ 丹波イノベーションアワードによる顕彰	739 . . . P 22
拡	・ 人材確保・産業立地推進事業	875 . . . P 23
拡	・ “シリ丹バレー”構想の推進	14,282 . . . P 24
新	・ たんばLPS (Local Problem Solution) コンテストの開催 - “シリ丹バレー”構想の推進-(再掲)	7,000 . . . P 25
<b>IV 柔軟な働き方が可能な社会の形成</b>		<b>0</b> 千円 ④
	・ 民間副業人材の活用・ユース起業アカデミー - “シリ丹バレー”構想の推進-(再掲)	
<b>V 創造的人材の育成・活用と地域文化力の向上</b>		<b>9,187</b> 千円 ⑤
	・ グローカル丹波2025推進事業	2,460 . . . P 26
新	・ たんばフィールドバビリオンプレ体験事業	1,920 . . . P 27
	・ “もりびと”育成事業	933 . . . P 28
	・ たんばユース躍動プロジェクト	2,094 . . . P 29
拡	・ シューベルティアードたんばの支援	1,780 . . . P 30
<b>VI 人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティ出現</b>		<b>5,871</b> 千円 ⑥
	・ 丹波2050地域ビジョン推進事業	5,871 . . . P 31
	・ スマート・コミュニティ・プロジェクト - “シリ丹バレー”構想の推進-(再掲)	
<b>その他 共通事務費等</b>		<b>8,737</b> 千円 ⑦

[計31事業：新規4 拡充6 継続21]

$$\text{①}+\text{②}+\text{③}+\text{④}+\text{⑤}+\text{⑥}+\text{⑦}=\underline{95,340 \text{ 千円 } a}$$

$$a / b = 92.1\%$$

(参考) 令和5年度予算額 103,500 千円 b

## 丹波の里山づくり促進事業 (アクティブ・フォレスト・プロジェクト)

### 1 事業目的

丹波地域では、昭和63年に「丹波の森宣言」を採択し、地域全体を一つの森としてとらえ、自然と人と文化が調和した地域づくりを進めてきた。

この事業では、その一環として、「美しい里山」を次の世代へと繋いでいくための取組を県民局、丹波篠山市、丹波市及び(公財)兵庫丹波の森協会が共同して推進する。

### 2 事業内容(平成30～令和7年度)

#### (1) 森を未来につなぐフォーラム開催事業

里山を大切に守り育て、未来へつなぐ意識を醸成するため、令和7年度開催予定の里山づくりフォーラム開催に向けた準備を進める。

#### (2) 丹波の里山づくり発信事業

地域住民等が自ら継続的に里山を整備できるよう、その活かし方、楽しみ方を広く情報発信する。

##### ア 里山活動団体への支援

モデル団体に認定した活動団体等の要望に応じて、アドバイザーを派遣し、イベント企画、行政担当部局や木の駅プロジェクトとの連携など、継続的な活動ができるよう支援する。

##### イ WEBサイト「森機応変」の整備

丹波の里山に関わる活動の情報発信だけでなく森林所有者からの相談などに対応するため、令和4年度にワンストップ窓口として開設したWEBサイト「森機応変」の内容充実を図る。

(URL: <https://tanba-satoyama.jp/>)

#### (3) 里山資源等活用交流企画の調査・検証

丹波地域の里山の多様な資源等を来丹者に体験してもらい、里山への理解促進とともに里山整備を持続的に行うための実効性、経済性について調査・検証を行う。

### 3 予算額 1,731千円



木の駅プロジェクト



WEBサイト「森機応変」

担当部署	担当者	TEL
丹波農林振興事務所 森林課	森林課長 上田 敦祐	内線306 (直)0795-73-3795

## ㊤ 丹波の環境パートナーシップづくり

### 1 事業目的

「源流の里」である丹波地域には、貴重な動植物をはじめとする多様な生物が生息しており、その保全については、県、市、住民団体等関係主体が連携し、継続して活動できる仕組みとして、平成25年に「丹波地域環境パートナーシップ会議」を設置し、貴重な動植物の保全・再生意識の高揚、環境学習を実践することで、SDGsに幅広く取り組んでいる。

令和5年度に少年自然の家が閉館したことから、令和6年度は、環境学習プログラムを見直し、小学校等に丹波地域パートナーシップ会議から、講師派遣を行い、環境学習を支援する。

また、丹波地域では、里山の保全に取り組んでいる団体も多く、近年影響が顕著になったと言われている地球温暖化の影響を正しく認識し、更に丹波地域の木材を利用することで、カーボンニュートラルを実現するためのセミナーを実施する。

### 2 事業内容(平成25年～)

#### (1) 情報誌等による情報発信、交流促進(継続)

平成26年度から開始した情報誌の発行等を継続し、情報発信、会員相互の交流促進を図る。

#### (2) 環境学習プログラムの提供(拡充)

パートナーシップ会議参加団体から講師派遣を行い、丹波地域の自然(里山、河川、生物等)を活かした環境学習プログラムの提供を行う(プログラム種類の拡大)。

(例) 水辺のプログラム、生物多様性プログラム、里山活用プログラム、巨木探索プログラム等

#### (3) セミナー(拡充)

専門家や活動団体から、地球温暖化の影響、里山の保全や木材の活用について学び、丹波地域でのカーボンニュートラルを実現するためのセミナーを実施し、SDGs達成を目指す。

会場：丹波市または丹波篠山市

時期：9月～10月の1日

対象：一般県民(大人中心、現地、WEB 200人程度)

内容：講演(専門家等)、事例紹介(活動家等)、パネルディスカッション・意見交換等

### 3 予算額 1,093千円



担当部署	担当者	TEL
県民交流室 環境課	室長補佐兼課長 石倉 洋介	内線 278 (直)0795-73-3773

## 不法投棄をさせない！きれいな丹波づくりの推進

### 1 事業目的、効果等

丹波地域の産業廃棄物の不法投棄対策として管内のパトロールを実施しているが、平成25年度から開始した「不法投棄をさせない！きれいな丹波づくり」の効果もあり、平成25年度以降は10トン以上の不法投棄はなかった。

表 10t以上の不法投棄事案 上段：件数 下段：投棄量(t)

	H30	R1	R2	R3	R4
丹波地域	0件 0t	0件 0t	0件 0t	0件 0t	0件 0t
県全体	2件 868t	1件 210t	4件 860t	3件 6,059t	6件 15,476t

令和6年度も、これまでの事業に引き続き取り組むとともに、不法投棄の早期発見及び未然防止を図るため、新たに監視カメラ等の機材の貸出しを行う。

### 2 事業内容(平成25年～)

#### (1) 不法投棄防止講習会の開催

丹波地域及びその周辺の建設業者等を対象とした講習会を年1回秋頃開催し、法令等の周知、検挙事例の紹介等を行い法令遵守の徹底を呼びかけ意識の向上を図る。

- ・ 時期：令和5年10月～11月頃
- ・ 講師：学識者や専門家(計2名)
- ・ 対象：丹波地域及びその周辺の建設業者、ボランティア不法投棄監視員、行政、警察等
- ・ 会場：感染症等予防のため、丹波地域の規模の大きな会場を使用



#### (2) 不法投棄防止協力事業所及びボランティア不法投棄監視員の積極的活用

不法投棄防止協力事業所(104事業所)及びボランティア不法投棄監視員(28名、任期：令和5年度～7年度)による県民局等への通報制度を引き続き運用し、管内の関係機関と連携して、不法投棄の早期発見及び未然防止を図る。

#### (3) 監視カメラによる不法投棄の未然防止

監視カメラを用いて夜間や休日等、住民や行政の監視が行き届かない時間帯の不法投棄を未然に防止するために不法投棄多発地点に監視カメラを設置している。近年、県下では大規模な不法投棄事案が発生しており、管内での不法投棄の未然防止の強化を図るため、令和6年度から、監視カメラ等の機材の貸出しを関係機関対象に実施する。

### 3 予算額 211千円

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 環境課	室長補佐兼課長 石倉 洋介	内線 278 (直)0795-73-3773

## 桜づつみ回廊の美観保全

### 1 事業目的

兵庫県は、平成3年度から12年度にかけて、瀬戸内海から日本海を結ぶ延長約170kmの河川沿い(武庫川～篠山川～加古川上流～円山川)を約5万本の桜でつなぐ「ふるさと桜づつみ回廊」を整備した。

桜づつみ回廊の景観は、丹波地域の春を象徴するものであり、水分れ街道(井原～稲継)、丹波の森街道(稲継～大山下)、川代恐竜街道(大山下～井原)の丹波三街道は「さくら周遊ルート」と呼ばれ、親しまれている。丹波篠山市は、桜を「市の木」として位置づけており、桜の保全活動を行っている。

桜づつみ回廊は、整備後約30年が経過し、てんぐ巣病に罹患した木や枯木などが存在していることから、県も市と連携して住民団体等が実施する桜の保全活動を支援することにより、「さくら周遊ルート」をはじめ丹波地域の桜の保全、長寿命化を図る。

### 2 事業内容

#### (平成26年度～令和5年度)

県は、川代溪谷など川代恐竜街道沿いの桜の樹勢調査を実施し、てんぐ巣病対策のための剪定等を行い、桜の保全を実施した。

#### (令和6年度)

丹波篠山市では、桜守、自治会、造園組合等の団体で構成される「ささやま桜協会(以下、協会という。)」が市内の桜の保全活動に取り組んできた。

丹波篠山市役所は、この協会に補助を行うとともに、令和5年度には、協会とともに「桜ビジョン検討会」を作り、今後の桜保全のあり方を検討している。

こうした協会等が桜づつみ回廊で実施する桜の保全活動に対し、県としても、丹波篠山市と連携して補助を行うことにより、桜の保全、長寿命化を図る。

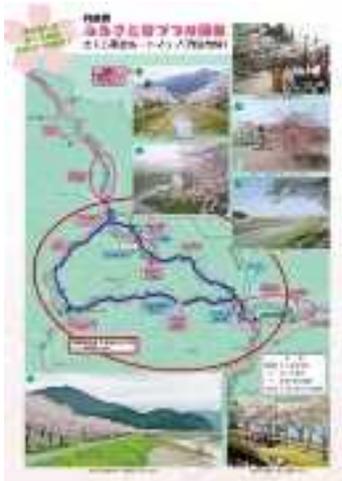
#### <対象団体>

桜づつみ回廊の桜の保全活動を実施し、丹波篠山市が補助を行う地域住民の団体

#### <対象事業>

- ・てんぐ巣病対策、桜守(樹木医)の指導等の活動、その他景観保全に関する費用
- ・補助額 丹波篠山市と同額補助(上限1,000千円)

### 3 予算額 1,000千円



篠山川沿いの桜づつみ

担当部署	担当者	TEL
丹波土木事務所 企画調整担当	所長補佐 畑 敏幸	内線353 (直)0795-73-3828

## 地域再生活動の次世代への承継

### 1 事業目的

これまで多くの集落で、地域資源を活用した賑わいの創出や特産品開発、移住・定住の促進に関する自主的・主体的な地域活動が行われてきたが、活動の担い手の高齢化や後継者不足が次第に顕著となり、その継続が困難になっている。

このため、現役・子育て世代や若手移住者、学生等の地域活動への参画を促進し、活動のノウハウや様々な地域資源、地域活性化の取組を次世代に承継することで、地域の継続的な活性化を図る。

### 2 事業内容

現役・子育て世代や若手移住者、学生等が地域活動に参画し、地域活動のノウハウや様々な地域資源、地域活性化の取組を次世代に承継する新たな取組に対して補助を行う(県の他の補助制度や市の地域づくり交付金等により実施されている既存の取組を除く)。

- ・ 対象者 小規模集落または小学校区単位の地域協議会等
- ・ 対象事業 地域活動のノウハウや様々な地域資源、地域活性化の取組を次世代に承継する取組
  - ※ 若手移住者や現役・子育て世代、学生等の事業参画を要件とする。
  - ※ 補助額の1/2以上をソフト事業に充当すること。
  - ※ 過去に地域再生大作戦で実施した内容を単に延長する取組を除く。

- ・ 補助率等 定額

【上限】

- ・ 小規模集落(単一集落)の場合 : 最大500千円/年
- ・ 小学校区単位の協議会等の場合 : 最大1,000千円/年
- ※ 継続分は上記の半額を上限とする。

- ・ 採択件数 継続1件(R4採択:1件) ※R5,6の新規採択はなし

### 3 予算額 566千円

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 地域共創課	多自然地域づくり専門官 北口 純也	内線296 (直)0795-88-5045

## 地域農業の担い手の育成・農地のフル活用

### 1 事業目的

農家の減少・高齢化や耕作放棄地の拡大が進む中、持続可能な農業・農村を実現するために、集落の実情に応じた営農を展開するための整備手法や、営農に際しての支障要因（獣害および草刈り）の軽減のため新技術を活用した工法など、農地の基盤整備（レベルアップ）を提案するものである。

### 2 事業内容

#### (1) 農地のレベルアップ整備・計画策定支援事業

地域が目指す営農像を実現するにあたって、現在の農業基盤にかかる課題を解決するために必要と考えられる整備内容（用水路のパイプライン化や農地の大区画化等）について、集落における話し合いや検討作業を支援する。

- ・ 集落等に対して専門のコンサルタントを派遣



用水路のパイプライン化

#### (2) 農地のレベルアップ整備・新技術活用モデル事業

獣害防止と雑草抑制による営農労力の軽減を図るため、電気柵設置箇所周辺および農地法面に鉄鋼スラグ材の敷設工事を実施し、効果の検証、成果の普及を図る。

- ・ 鉄鋼スラグ材敷設工事（県営土地改良事業実施地区内）
- ・ 効果検証事業



鉄鋼スラグ材の敷設例

#### (3) 事業主体

県

### 3 予算額 2,000千円

担当部署	担当者	TEL
篠山土地改良事務所 農村計画課	所長補佐兼課長 植杉 武生	(直)079-552-7417

## 地域でため池を守るプロジェクト

### 1 事業目的

「ため池の保全等に関する条例」に基づき、適正な管理と多面的機能の発揮の促進を図るため、ため池の景観や、それにまつわる地域の文化・歴史を県民に対して広く発信することにより、都市農村交流を促進するとともに、ため池の所有者等に対してため池の管理や保全の意識を高揚させる取組を実施する。

### 2 事業内容（令和3年度～）

#### (1) ため池のかいぼり実施

ため池の多面的機能について再認識し、保全への意識を高めるため、ため池のかいぼり等を実施する。

実施内容：かいぼり、機能・構造研修会、自然観察会など

実施箇所：丹波地域のため池2箇所



ため池かいぼり（大内池）

#### (2) 農業用ダム・ため池魅力発信事業

丹波地域のため池は、山裾に設置された谷池形状のものが多いため、県民の目に触れる機会が限られているが、これらが持つ優れた景観を観光資源として活用し、様々な方法でため池の魅力を広く発信することで、地域への来訪者を増やし、地域の活性化を図る。

##### ア インフラツーリズムマップ作成

丹波地域の農業用ダムや主なため池を掲載した案内マップを整備し、都市住民などが現地を訪れる際に活用できるようにする。

##### イ ため池看板作成

一定以上の災害リスクがある特定ため池について、ため池の名称と管理者名を記載した看板を作成する。

看板設置により、ため池がランドマークとして地域住民および来訪者に周知を図るとともに事故防止を促す。



ため池看板（設置例）

#### (3) 事業主体

県

### 3 予算額 1,000千円

担当部署	担当者	TEL
篠山土地改良事務所 農村計画課	所長補佐兼課長 植杉 武生	(直)079-552-7417

## II 集落、まちの創生－居心地の良い「場」の創出－

### まちの拠点創造プロジェクト

#### 1 事業目的

丹波地域の中心市街地（JR 柏原駅南用地等）において、まちの交流ゾーンとしての求心力向上に向け、多拠点居住やテレワーク等新たな暮らし方、働き方にも対応した複合的な都市機能を官民共同で推進する。

#### 2 事業内容

##### (1) JR 柏原駅南用地における利活用の検討

R4 基本構想及び R5 基本計画を踏まえて、民間企業へのサウンディングや現地見学会等を実施し、JR 柏原駅南用地の認知度を高め・施設整備への機運を醸成すると共に、基本計画に基づく土地利用実現の検討を行う。

ア 認知度向上や機運醸成に向けた取り組みの概要

- ・民間事業者へのサウンディング調査
- ・現地見学会の開催

イ 暫定的な土地利用の検討

- ・地元の団体や企業が主体となった整備やイベントの開催

##### (2) 活動拠点（柏原スタジオ）の運営支援等

まちの拠点創造プロジェクト推進の拠点の一つと位置づける「柏原スタジオ」の運営を支援

ア 支援の概要

- ・スタジオの家賃や光熱水費等の経費
- ・中高生の放課後の居場所づくりのための運営費

(参考：柏原スタジオの運営状況)



関学生と地元中学生との交流会(令和5年8月)



柏原高校生による演奏会(令和5年11月)

#### 3 予算額 5,100千円

担当部署	担当者	TEL
丹波土木事務所 まちづくり建築課	所長補佐兼課長 福田 充宏	内線391 (直)0795-73-3860

## Ⅱ 集落、まちの創生－居心地の良い「場」の創出－

### ⑧ JR加古川線維持・利用促進事業

#### 1 事業目的

JR加古川線（西脇市駅～谷川駅間）は、JRが公表した輸送密度 2,000人/日未満の路線に該当しており、近畿でもっとも厳しい利用状況にある。そこで、地元住民の日常利用を促進するため、JR加古川線各駅で平日夜にマルシェ（夜市）を開催し、開催日当日の電車通勤と夜市への来訪を促すことによって同線の利用に繋げる。また、これらの取組を恒常的に実施できるような環境整備を検討する。

#### 2 事業内容

##### （1）加古川線リレーマルシェ

谷川駅・久下村駅の駅前広場等において、キッチンカーや屋台の出店によるマルシェ（夜市）を開催する。なお、北播磨県民局でも同様の取組を実施し、マルシェをリレー開催する。

- ① 実施時期 平日夜年2回程度（谷川駅：1回、久下村駅：1回）
- ② 実施主体 丹波県民局、久下自治振興会等
- ③ 対象者 JR加古川線沿線企業の従業員、地域住民等
- ④ 実施内容 キッチンカーや屋台の出店等

##### （2）久下村駅周辺環境整備検討会議

久下村駅にはトイレ・電灯が設置されていないため、マルシェの継続開催のみならず、万博及び万博開催後を見据え、播磨方面からの玄関口として恒常的な賑わいを創出するためには、駅舎周辺の環境整備を検討する必要がある。このため、関係機関とともに将来を見据えた環境整備について検討する会議を開催する。

#### 3 予算額 1,498千円



谷川夜市で賑わう駅前広場

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 総務防災課	班長(企画防災担当) 宇野 真由美	内線 2 1 3 (直)0795-73-3718

## J R福知山線の利用促進

### 1 事業目的

J R福知山線は、阪神地域と但馬地域を結ぶ重要な幹線であり、丹波地域にとっては定住化の促進、交流の活性化などこれからの地域づくりに必要不可欠な社会基盤である。

しかしながら、近年、篠山口駅以北の乗車人員の減少が続いており、地域活力を高めるためにも利便性向上対策は喫緊の課題であるため、利用促進に繋がる取組みについて、市や鉄道事業者等と連携を図りながら推進する。

### 2 事業内容

#### (1) 「たんば鉄道イベント実行委員会※」の活動推進

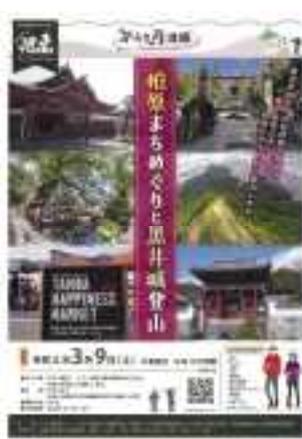
観光シーズンに阪神地域の観光客等にむけたPR活動及び丹波市内の駅を起終点とする「もみじめぐりツアー」周遊バスの運行や丹波の魅力発見ハイキングイベントなどを実施する。

また、丹波市民に対し毎月22日の「たんば鉄道の日」の浸透やICOCAの普及・利用啓発を図ることなどを目的としたミニ新幹線イベントなどを実施する。

※ 「たんば鉄道イベント実行委員会」：丹波市、県(丹波土木)、丹波市観光協会、丹波市商工会、JR西日本福知山支社で構成(事務局：丹波市)



イベントチラシ(令和5年)



ミニ新幹線イベント(令和5年10月実施)

#### (2) 丹波篠山観光協会と連携した活動推進

観光シーズン等に丹波篠山市内の駅を起終点としたハイキングイベントを実施する。

(春と秋の2回を予定)



クリンソウの咲く多紀連山ハイキング(令和5年5月実施)



虚空蔵山と陶の郷ハイキングイベント(令和5年11月実施)

### 3 予算額 1,300千円

担当部署	担当者	TEL
丹波土木事務所 企画調整担当	所長補佐 畑 敏幸	内線353 (直)0795-73-3828

## Ⅱ 集落、まちの創生－居心地の良い「場」の創出－

### 学生等による地域貢献活動の推進

#### 1 事業目的

学生等が地域団体と連携して実施する自主的な地域貢献活動を支援するとともに、学生から丹波2050地域ビジョンやまちづくりの推進等に資する提言等を得て、地域の課題解決や活性化を図る。

#### 2 事業内容

##### (1) 学生団体の活動費の支援

丹波地域で大学のフィールドワークに参加した経験のある学生や丹波地域で地域貢献活動を希望する学生などが、地域と連携して実施する自主的な地域貢献活動を支援することにより、学生等の活力や知恵、経験等をまちづくりや地域活性化に活かす取組を推進する。

##### ア 支援の概要

- ・ 補助額：1団体あたり20万円以内(県1/2, 市1/2)
- ・ 補助対象経費：交通費、ボランティア保険、報告書作成費、活動地周辺での宿泊費
- ・ 採択団体：14団体程度

##### イ 支援対象活動例

- ・ 地域活性化のためのイベントの実施
- ・ 地域資源の発掘や魅力の情報発信
- ・ 農作業の手伝い等のボランティア活動
- ・ 放置竹林の整備と間伐竹の活用法の提案

##### (2) 報告会の開催

- ・ 参加団体間の交流を図るとともに、情報共有による活動の更なる深化を図る

(参考：令和5年度の活動状況〔丹波地域にて県内外の10団体が活動〕)



高校生との竹林整備の竹材を活用したフラワーポットの作成【関西大学】(令和5年5月)



山賊ワイルドラン(走りながら、地元の食材・特産品、自然にたくさん触れる)の開催【神戸学院大学】(令和5年10月)

#### 3 予算額 1,500千円

担当部署	担当者	TEL
丹波土木事務所 まちづくり建築課	所長補佐兼課長 福田 充宏	内線391 (直)0795-73-3860

## 地域防災力の充実強化事業

### 1 事業目的

多様化する自然災害に備えた地域防災力の強化を図るため、平時から市域を越えた丹波地域内の関係機関と「顔が見える関係」を構築するとともに、「自分たちの命は自分たちで守る」という意識を醸成し、地域防災力の強化を図る。

また、阪神・淡路大震災の経験と教訓を承継し、県民一人ひとりが大震災を忘れず、将来の災害に備えるため、「ひょうご安全の日」である1月17日の前後に、学校等と連携した防災訓練を実施するほか、「たんばっ子！学びフェスタ」にて、青少年を対象とした防災教育を行う。

### 2 事業内容

#### (1) 地域防災力向上事業

自主防災組織、社会福祉協議会、災害ボランティア団体、行政等の災害時支援関係機関・団体と課題等を共有し、防災に関する知識を習得する研修会を実施する。

時期：令和6年6月頃

#### (2) 「1.17は忘れない」地域防災訓練推進事業

学校と自治会等の地域住民、関係機関・団体等が連携した防災訓練を実施する。また、子どもたちに阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承する「ひょうご安全の日」地域のつどいを開催する。

時期：令和7年1月



地震体験車訓練

#### (3) 丹波青少年の防災訓練教育推進事業

「たんばっ子！学びフェスタ」において青少年を対象に地震体験車による地震体験を実施するなどの防災教育を行う。

時期：令和6年11月

### 3 予算額 2,259千円

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 総務防災課	班長(企画防災担当) 宇野 真由美	内線213 (直)0795-73-3718

## 先端技術等を活用したスマート農業の推進

### 1 事業目的

黒大豆・小豆・粟・山の芋に代表される兵庫丹波地域のブランド農産物の生産維持・拡大を図るため、生産を効率化するスマート農業技術の導入を支援する。

### 2 事業内容

#### (1) 農業用ドローン利用の拡大に向けた支援

農業団体等を核としたドローン防除を推進するとともに点在するドローン所有者のネットワーク化を図り、ドローン防除の面的拡大による広域的なドローン防除サービス網の構築を支援する。



#### (2) 衛星画像等のデータを用いたスマート施肥システムの技術実証

地力や植生に応じた適切な施肥を実現するため、衛星画像等の解析画像等の解析データをもとに施肥量を自動調整し、施肥やコスト低減に向けた栽培技術の実証を行う。

#### (3) 果樹におけるスマート農業技術の実証

栗において、農業用ドローンを利用した病虫害防除の省力化・効率化に向けた実証を行う。

### 3 予算額 3,400千円

担当部署	担当者	TEL
丹波農業改良普及センター	地域課長 三木 直樹	内線321 (直)0795-73-3803

### Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

## 兵庫丹波ブランド農産物の生産振興強化

### 1 事業目的

兵庫丹波地域のブランド農産物である栗、小豆等の生産維持・拡大に向け、振興方策の検討や条件整備等による生産体制の強化を図るとともに、新たなブランド農産物として酒造好適米であるHyogo Sake85を推進するため、栽培研修会やPRイベントの開催などにより収量・認知度向上に取り組む。

### 2 事業内容

#### (1) 丹波栗の郷づくり推進事業

##### ア 丹波栗再生戦略会議の運営

県民局、丹波篠山市、丹波市、J A、商工会、観光協会等で構成する「丹波栗再生戦略会議」において、担い手の育成、栽培面積拡大等の振興方策を検討する。

##### イ 生産体制の強化

##### (ア) 新植園の条件整備

新規植栽園の成園化を図り、生産量向上を促進するため、大規模剪定、獣害対策、凍害対策等に要する経費を助成する。

##### (イ) 栽培技術向上支援

丹波栗の高品質化や多収穫などの栽培技術を新規栽培者等に広く普及するため、生産者組織が行う技術研修活動を支援する。

##### (ウ) 丹波栗苗木生産体制整備

苗木の試験ほを設置し、丹波地域に適した優良苗木の生産・供給体制を確立する。



技術研修活動

#### (2) 大納言小豆対策事業

##### 丹波大納言小豆ブランド戦略会議の運営

丹波大納言小豆の収量や認知度の向上等を図るため、J Aや丹波市等の関係機関と連携し、栽培技術実証やPR活動を実施する。

#### (3) 酒造好適米新品種「Hyogo Sake 85」のブランド育成

##### ア 生産拡大支援

「Hyogo Sake 85」の栽培面積拡大を後押しするため、栽培面積に応じて栽培奨励金を支払う。

##### イ 安定生産の推進とPR

「Hyogo Sake 85」の安定生産に向け、栽培研修会の開催や種子の生産・供給体制を確立する。また、「Hyogo Sake 85」を使用する丹波地域の酒造メーカーと連携し、PRを行う。

### 3 予算額 3,547千円

担当部署	担当者	TEL
丹波農林振興事務所 農政振興課	課長 西川 毅	内線300 (直)0795-73-3793

### Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

## 兵庫丹波ブランド農産物の魅力発信

### 1 事業目的

黒大豆・小豆・栗・山の芋に代表される丹波地域のブランド農産物のブランド力をより強固なものとし、四季を通じた丹波地域の賑わいを創出するため、各種フェアの開催や新商品開発等を支援する。

### 2 事業内容

#### (1) 兵庫丹波ブランド農産物の各種フェアの開催

##### ア 「丹波栗フェア」の開催

丹波栗を味わえる店舗、商品などを広く紹介するため、12回目となるフェアを開催する。

開催時期：9月～11月(予定)

※ 令和5年度 9/16～11/5 79店舗

##### イ 「ぜんざいフェア」の開催

丹波市の丹波大納言小豆から作ったぜんざいを味わえる市内飲食店等を紹介するため、9回目となるフェアを開催する。

開催時期：11月～2月(予定)

※ 令和5年度 11/1～2/18 33店舗

##### ウ 「山の芋フェア」の開催

山の芋の生産者や市内飲食店等と連携し、産地としての魅力を発信するため、7回目となるフェアを開催する。

開催時期：11月～2月(予定)

※ 令和5年度 11/18～2/4 40店舗

#### (2) フードビジネスへの新たな取組に対する支援

(新商品等開発応援事業)

兵庫丹波ブランド農産物を活用した新商品開発にかかる試作や販売促進の経費を支援する。



各種フェア(丹波栗、ぜんざい、山の芋)

### 3 予算額 5,500千円

担当部署	担当者	TEL
丹波農林振興事務所 農政振興課	課長 西川 毅	内線300 (直)0795-73-3793

### Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

## ㊦ 丹波の地酒魅力向上事業

### 1 事業目的

地場産業である清酒業の振興のため、竹田川源流の一つに位置する三宝ダムの管理トンネルにおいて、同水系の水を使用している丹波市内の3酒造と連携し、「Hyogo Sake 85」等を原料とした日本酒等を貯蔵・熟成させる貯蔵酒の取組を行う。貯蔵酒は、蔵出し時にイベントを実施するなど、「丹波<sup>みたちから</sup>三宝ダム貯蔵酒」として付加価値を持たせ販売促進を図る。

また、丹波篠山市内の酒造も含めた管内の酒造との新たな連携事業について検討を進める。

### 2 事業内容

#### (1) 丹波三宝ダム貯蔵酒事業 (R3～)

##### ① 酒造

株式会社西山酒造場、山名酒造株式会社、鴨庄酒造株式会社

##### ② 時期

蔵入れ (4月上旬)、蔵出し (9月下旬)  
商品公表・販売 (10月上旬)

##### ③ 主な取組

共通ロゴ、チラシ、ポスター等の作成、SNS等による情報発信  
販売イベントの実施等

#### (2) 管内酒蔵との新たな連携事業の検討 (R6～ 新規)

- ・「明治鐘ヶ坂隧道」の活用の可否等
- ・丹波焼、地元食材等の魅力ある地域資源と合わせて効果的に情報発信するなど広く検討



丹波三宝ダム貯蔵酒

### 3 予算額 750千円

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 産業振興課	班長(大丹波連携・ ツーリズム担当) 風間 康彦	内線291 (直)0795-73-3788

Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

## 食文化ツーリズム・プロジェクト

### 1 事業目的

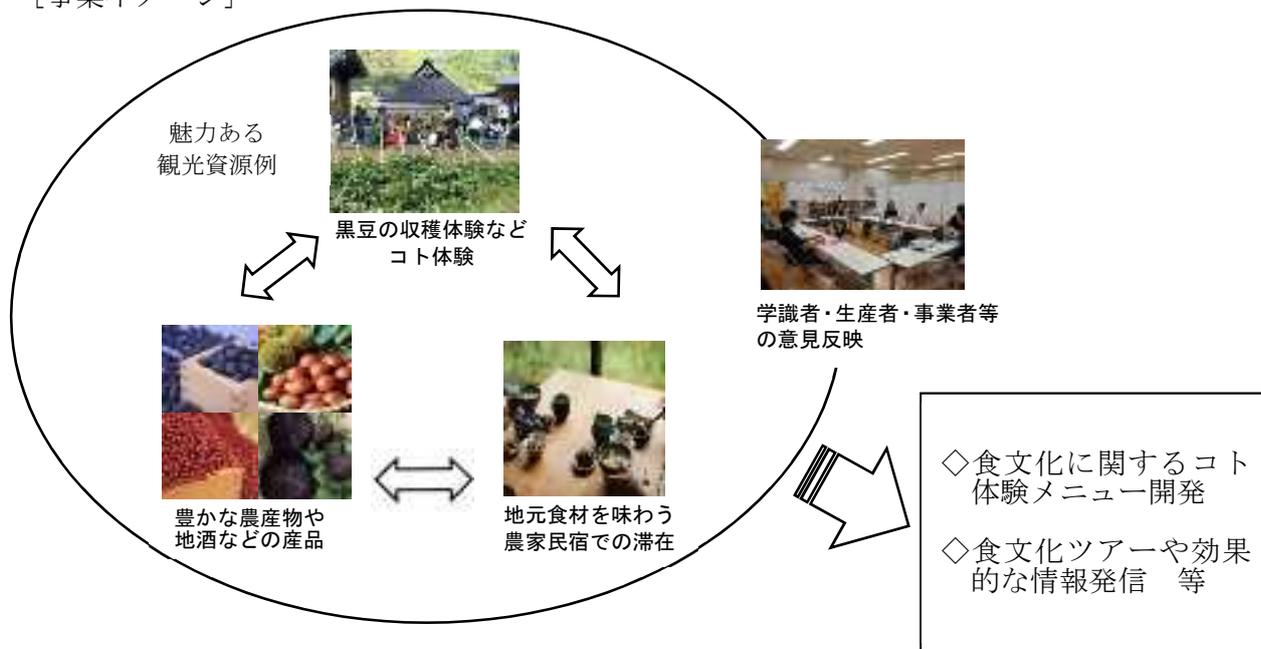
丹波地域の食や文化について、食材そのものを始め、育てる人の思いや地域ならではの味わい方、土地の風土など、五感の全てで地域の魅力をストーリーとして楽しむ食文化ツーリズムを推進する。

### 2 事業内容

- (1) 食文化ツーリズムの展開方策等を議論する「食文化ツーリズムプロジェクトチーム」を運営
- (2) プロジェクトチームにより得られた知見を活用し、食文化に関するコト体験コンテンツの開発支援や、WEBサイト「ぶらり丹波路」、SNS等による魅力発信などの取組を展開

### 3 予算額 200千円

[事業イメージ]



担当部署	担当者	TEL
県民交流室 産業振興課	班長(大丹波連携・ ツーリズム担当) 風間 康彦	内線 291 (直)0795-73-3788

### Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

## 四季の丹波「コト体験」の充実

### 1 事業目的

旅行ニーズの「モノ消費」から「コト消費」への移行や、マイクロツーリズム需要、大阪・関西万博を控えたインバウンド誘致を見据え、中小企業者等が実施する丹波の地域資源を活用した「コト体験」コンテンツのブラッシュアップ等を支援することにより、四季を通じて更なる誘客を図る。

### 2 事業内容

丹波地域への誘客に資する丹波の食・食文化を体感できる体験プログラムなど地域資源を活用した、新たなコト体験の開発又は既存コト体験の磨き上げに要する経費を支援することにより、コンテンツの充実を図る。

#### (1) 補助対象者

丹波地域に本店又は活動拠点を有し、体験型プログラムを営む中小企業、中小企業団体(事業協同組合等)、小規模事業者、個人事業主等(地域団体や農業従事者等を含む)

#### (2) 補助対象

コト体験の新規開発・磨き上げに要する経費

ガイド育成講習の講師謝礼、物品・備品購入費、改修工事費、宣伝費、ホームページ開設・改修費 等

#### (3) 補助額

上限20万円(補助対象経費の1/2) 12件程度

※ フィールドパビリオンの内容充実を図る取組や食文化ツーリズムに資する取組等に対する枠を設ける

### 3 予算額 2,420千円



地元食材のお菓子づくり体験



陶芸体験

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 産業振興課	班長(大丹波連携・ ツーリズム担当) 風間 康彦	内線291 (直)0795-73-3788

### Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

## ⑧ 誘客促進に向けた二次交通の整備

### 1 事業目的

大阪・関西万博の開催を見据え、丹波地域への誘客を促進するため、管内の観光資源、ひょうごフィールドパビリオン等を巡る周遊観光バス事業を実施するとともに、イベント時に環境に優しいグリーンスローモビリティの移動サービスを提供するなど二次交通の整備を試験的に実施する。

### 2 事業内容

#### (1) 周遊観光バス事業「ぶらり丹波路号（仮称）」の試験運行

- ① 運行ルート JR福知山線篠山口駅等の主要駅を発着地とし、観光施設、ひょうごフィールドパビリオン認定プログラム体験等が楽しめる周遊コースを設定
- ② 運行時期 秋頃、20日間程度（土日祝）
- ③ 運行回数 1日1便

#### (2) 丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム「たんば恐竜号（仮称）」の試験運行

- ① 運行ルート 最寄り駅から丹波並木道中央公園、元気村かみくげ、ちーたんの館等のスポット
- ② 運行時期 夏休み期間、イベント時

### 3 予算額 3,200千円



グリーンスローモビリティ



丹波竜の里公園・元気村かみくげ

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 地域共創課【事業内容(2)】	たんば共創参事 足立 正道	内線212 (直)0795-73-3717
県民交流室 産業振興課【事業内容(1)】	班長(大丹波連携・ ツーリズム担当) 風間 康彦	内線291 (直)0795-73-3788

### Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

## 観光情報の戦略的発信

### 1 事業目的

丹波地域の四季折々の魅力情報を様々な媒体により発信するとともに、兵庫県と京都府にまたがる大丹波(2府県、6市1町)の府県の枠を越えた連携事業を推進し、さらなる誘客の促進、交流人口の拡大を目指す。

### 2 事業内容

#### (1) 丹波地域の観光情報の発信

- ① ウェブサイト「ぶらり丹波路」の管理運営  
リーフレットと連動した特集記事やイベント情報等を発信
- ② リーフレット「ぶらり丹波路」の作成  
特集テーマに基づく観光情報を新たな視点で発信  
作成部数：30,000部×2回  
配布窓口：市観光協会、観光関連施設等
- ③ ぶらり丹波路ツーリズムマップの作成  
作成部数：10,000部  
配布窓口：市観光協会、観光関連施設等



リーフレット「ぶらり丹波路」イメージ

#### (2) 広域観光の連携推進

##### 【大丹波連携】

- ① 大丹波スタンプラリー等の実施  
大丹波地域の観光スポットを巡るスタンプラリー等を実施
- ② 大丹波ホームページ、SNSの運営・内容充実  
観光サポーターからの活動報告を活用した観光情報等を適時に発信
- ③ 大丹波観光サポーターへの情報提供  
口コミ等による大丹波への誘客を図るため、観光サポーターに情報提供
- ④ 大丹波観光推進委員会の運営

##### 【北近畿広域観光連携】

- ① 北近畿エリアと連携した観光情報の発信
- ② 観光素材説明会及び商談会

### 3 予算額 5,500千円

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 産業振興課	班長(大丹波連携・ ツーリズム担当) 風間 康彦	内線291 (直)0795-73-3788

## ㊤ 恐竜化石フィールドミュージアムの推進



### 1 事業目的

恐竜化石フィールドミュージアム構想に基づき、野外博物館の魅力を地域内外へ広く伝えることにより、フィールドミュージアムの浸透強化と地域内外からの更なる誘客を図る。

### 2 事業内容

#### (1) 二次交通の試験運行（新規） ※再掲（二次交通の整備による丹波周遊観光促進事業）

2025年大阪・関西万博時のひょうごフィールドパビリオンの展開等を見据え、電車で丹波地域へ来訪する方がフィールドミュージアムのスポットを訪問する際の二次交通となる乗り物「たんば恐竜号（仮称）」を試験運行する。

#### (2) 企業部会の運営・副業的人材の活用（継続）

協議会のもとに設置した企業部会や、民間企業から招聘する副業的人材と連携し、民間企業の視点からコト体験のメニュー開発等を進める。

#### (3) 情報発信・プロモーション（継続）

見どころスポットなどの解説提供や外国語に対応したページなど、丹波地域恐竜化石のポータルサイトとしてのホームページの機能充実を図るとともに、現地にQRコードを設置し、スマートフォンからホームページを閲覧できるよう整備することで、学習効果及び観光の利便性向上を図る。

「大地とくらしのガイドブック」をフィールドミュージアム拠点施設・サテライトとともに、地域外のSAや公共施設等にも配架する。

#### (4) 人材育成・活用（継続）

潜在的顧客層の掘り起こしに向けサポーター制度を運用し、LINE公式アカウント等で定期的に情報を提供することにより、フィールドミュージアムへの来訪を促す。

発掘調査・研究事業やイベント事業を継続的に推進していくため、人と自然の博物館が認定する化石専門指導員の資格取得を働きかける。

#### (5) 教育・ツーリズム事業の展開（継続）

関係施設と連携した体験型事業等の展開により、丹波地域で発掘される恐竜・ほ乳類等化石の価値及び恐竜化石フィールドミュージアムの魅力を普及するとともに、地域内外からの誘客を図る。

- ・ フィールドミュージアム体験プログラムの開催
- ・ モバイルスタンプラリーの実施
- ・ 出前化石発掘体験会（アウトリーチ事業）の実施
- ・ ティラノサウルスレース開催支援



【出前化石発掘体験会の様子】

#### (6) 商品開発、製作（継続）

丹波地域で発掘した恐竜・ほ乳類をモチーフにした商品の企画・開発に取り組む。

### 3 予算額 4,874千円

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 地域共創課	たんば共創参事 足立 正道	内線212 (直)0795-73-3717

### Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

## 丹波すぐれもの大賞-TAMBA INNOVATION AWARD-による顕彰

### 1 事業目的

地元企業の優れた企画・技術力を広くアピールし、地域の産業を活性化するため、地域発イノベーションを推進する革新的で高い技術力による製商品の製造や、地域資源を観光・交流につなげる事業やイベントを行う企業や団体等を「丹波すぐれもの大賞 -TAMBA INNOVATION AWARD- 」として表彰する。

### 2 事業内容

#### (1) 表彰

以下の3部門において審査を行い、特に優れた評価を受けた企業・団体等を表彰する。

##### ① きらめき（製商品）部門

革新的で高い技術により開発された製商品

##### ② わくわく（食料品）部門

丹波地域の特色を活かした独創的で優れた品質の食料品

##### ③ ときめき（観光・交流）部門

地域資源を新たな工夫で活用し、観光・交流を促進する事業、イベント

#### (2) 募集

自薦又は他薦により表彰対象を募集する。

#### (3) 選考・表彰

審査委員会において選考し、県民局長が表彰する。

#### (4) 広報等

選考された製商品等は、パンフレットの作成・配布や県民だよりひょうご、ホームページ等の様々な機会を捉えて地域内外へ広く発信し、丹波のものづくり産業等への関心を高める。

また、賞の価値を高めていくため、受賞製商品は産業メッセ等の展示会へ出展し、情報発信する。



### 3 予算額 739千円

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 産業振興課	班長(大丹波連携・ ツーリズム担当) 風間 康彦	内線291 (直)0795-73-3788

### Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

## ㊤ 人材確保・産業立地推進事業

### 1 事業目的

若年労働力の域外流失などが続いており、若者の地域定着やU J I ターンの促進等による人材の確保を図る必要がある。このため、「丹波地域人材確保協議会」(※)において、構成団体相互の連携のもと、若者の人材確保の取組を進める。

また、市及び関係機関と連携した企業の誘致活動を引き続き展開することにより、産業立地の推進を図る。

※「丹波地域人材確保協議会」構成団体

丹波県民局、柏原公共職業安定所、丹波篠山市、丹波市、丹波篠山市商工会、丹波市商工会、丹波雇用開発協会、管内6高等学校、氷上特別支援学校、篠山養護学校

### 2 事業内容

#### (1) 若者と地元企業のマッチング応援事業

内 容	事業名	主な対象者	開催予定時期
地元就職の支援	合同就職面接相談会	就職希望者(卒業見込、U J I ターン含む)	R6. 7
	採用担当者向け人材確保セミナー	企業採用担当	R7. 2
将来の就職に向けた地元企業の紹介	高校生対象企業紹介フェア	高校生 企業採用担当	R6. 4
	高校と企業との就職情報交換会	企業採用担当 高校進路指導職員	R6. 6
	企業と大学等の就職情報交換会	企業採用担当 大学等キャリアセンター職員	R7. 2

#### (2) 丹波地域企業の人材確保に対する支援

##### ① 丹波の企業魅力発信事業（新規）

管内企業の魅力情報や地元就職した若者のインタビュー等を広く発信し、学生や保護者らの地元就職への関心を高め、若手人材の地域定着を促進

##### ② 大学等への企業紹介、企業向け研修会の開催

#### (3) 企業誘致プロモーション

企業誘致機関への工場適地情報等の提供、市との企業誘致等にかかる情報交換等



企業と大学等の就職情報交換会

### 3 予算額 875千円

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 産業振興課	室長補佐兼課長 中井 昌彦	内線 288 (直) 0795-73-3775

### Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

## ㊦ “シリ丹バレー” 構想の推進



#### 1 事業目的

大都市に近接するも自然豊かな丹波地域は、新しいライフスタイルの創造が可能な地域として注目を浴びている。この機会を活かし、内外の産学官民のネットワーク形成を進め、地域発イノベーションの創出・創発を促進するエコシステム「シリ丹バレー構想」を推進し、地域の持つ人・場・資源と外部からの知恵・資金等を組み合わせ、さらなるイノベーション創出を図る。

#### 2 事業内容

##### (1) シリ丹バレー推進協議会の運営

丹波地域全体でプロジェクトを推進するために、関係機関の参画を得て設立した「シリ丹バレー推進協議会」において、それぞれの課題共有、施策の共同発信、プロジェクトで実施する事業の検討・企画等を行う。

##### (2) “シリ丹バレー” ウェブサイト [silitan-valley.com] の運営

シリ丹バレー推進協議会の活動状況、イベント情報、活動報告等の情報を掲載するとともに、小規模集落や農家等に対する地域課題ソリューションの提供、地域住民と都市部企業や地域企業とスタートアップ企業等のマッチング事例を掲載するなど、地域が必要とする情報の提供に努める。

【ウェブサイトで紹介するコンテンツ】

兵庫県の起業支援制度、イベントレポート（総会、セミナー等）、コワーキングスペース施設の情報発信 等

##### (3) シリ丹バレー推進セミナーの開催【継続】

シリ丹バレープロジェクトに関心を持った企業、移住者、起業家、地域住民等を対象に、ポストコロナ時代の事業創造や働き方等をテーマにセミナーを開催する。

【セミナー例】ワーケーション、森林・林業DX、スマートコミュニティ等

##### (4) 起業・創業等支援

###### ① 民間副業人材の活用

副業的人材として地元金融機関から協議会事務局に派遣を受けるとともに、都市部からIT・広告・マーケティング等の専門分野にかかる副業人材を活用するため、民間副業人材を登用するための仕組みを構築する。

###### ② ユース起業アカデミーの実施

若者をメインターゲットに令和5年度に実施したプログラムをビギナーコースとし、起業についてより深く、レベルアップした内容を学ぶアドバンスコースを開設し、丹波地域でイノベーションを起こす人材の発掘・育成を支援する。また、丹波で活躍する起業家と受講生との交流による、新たなアイデアの創出等を支援する。

###### ③ コワーキング・スペースのハブ機能の促進

地域内外のコワーキング・スペースのネットワーク化により、地域事業創造のハブとしての発展を促す(地域資源、食等を活かしたコワーキング・スペースでの小規模定例セミナーの開催等)。

###### ④ スマート・コミュニティ・プロジェクトの推進

暮らしやすい持続可能な地域社会の実現に向け、スマート技術の集落等への導入を研究する。

###### ⑤ 丹波ウッドバレープロジェクトの推進

木材関連産業を循環型地域経済の核と位置づけ、丹波産木材の生産拡大、流通・加工の促進、関連産業の裾野拡大を目的に木材関連産業創造ネットワークの形成を図り、新事業創出を目指す。

###### ⑥ 丹波型事業共創コミュニティ形成事業の実施

地域主導で主体的に事業を発意して新しいビジネスを興し、地域内外の力を結集し事業を展開するためのコミュニティ形成をめざす。地域への愛着を抱く地元の企業家・事業者（事業共創パートナー）が中心となり、コーディネート機能を担うことでコミュニティを機能させる。また次世代を担う人材を発掘することで、持続可能な地域づくりに取り組む。

###### ⑦ たんばLPS(Local Problem Solution)コンテストの開催【新規】

丹波地域内における起業プランや地域課題解決に資するアイデアを公募。セミナーによるブラッシュアップや数次の審査・プレゼンを通して計画を更に磨き上げる。コンテスト形式で地域内外に発信することで、地域住民・企業の理解促進、事業の支援者・協力者獲得、ネットワーク構築等に取り組む。

#### 3 予算額 14,282千円

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 地域共創課	多自然地域づくり専門官 北口 純也	内線 296 (直)0795-88-5045

① たんばLPS (Local Problem Solution) コンテストの開催 (再掲)  
 - “シリ丹バレー” 構想の推進-



1 事業目的

丹波地域内における起業プランや地域課題解決に資するアイデアを募集し、セミナーや審査・プレゼンを通して計画を更に磨き上げ、実現させることにより、地域の活性化・発展を目指す。

コンテスト形式で地域内外に発信することで、地域住民や企業の起業・地域づくりに関する意識醸成・理解促進、内外の支援者・協力者の獲得、異業種・異世代の交流促進とネットワーク構築、ビジネス展開・起業家等の育成、シリ丹バレー推進協議会参加者の拡大を図る。

管内両市・商工会等の起業支援の取組と連携を図ることで、たんばLPSコンテストへの応募につなげ、丹波地域における起業支援のネットワーク化を推進する。

2 事業内容

(1) ビジネスプラン等の募集

- ① ソーシャルビジネス部門…丹波地域が抱える課題を解決できるビジネスプラン・アイデア
- ② ローカルビジネス部門…丹波地域が有する資源(特産品・地理・歴史等)を活かした収益性の見込めるビジネスプランやアイデア

(2) ブラッシュアップセミナーによるプランの磨き上げ

アイデアやプランをより良いものとするため、段階に応じたワークショップやセミナーを実施し、ブラッシュアップを行う。また定期開催することで、応募者間のネットワーク形成や協業・ビジネスパートナーのマッチングも目指す(講師は先輩起業家、地元企業、商工会、金融機関等)。

(3) 審査・プレゼン

書面による一次審査、プレゼンによる二次審査・最終審査を行う(審査の段階に応じワークショップやセミナーを実施)。二次審査・最終審査はオープン審査とし、地域外企業向けにオンライン配信を行う。

地域内外に発信することで、機運醸成・理解促進、支援者・協力者の獲得に取組む。プレゼンのほか、審査員の講評、現地参加者の交流会も行う。

(4) ビジネスマッチング

ブラッシュアップセミナー、審査会のほか、都市部でのピッチイベントを行うなど、応募者と金融機関、投資家とのマッチングを行い、円滑なビジネス化を支援する。

【想定効果】

- ・関西経済連合会、都市部大企業との連携(資金援助や技術・ノウハウ提供)
- ・金融機関や投資家とのマッチング(事業展開に必要な資金調達)
- ・先輩起業家・企業等による審査・講義(実績のある人材による講義や講評による意識向上・事業発展)
- ・協業・ビジネスパートナーとのマッチング(意識、目標の合う人材との出会いによるイノベーション創出)
- ・ピッチ形式のコンテスト参加による事業展開、資金調達、協業等に必要なプレゼン能力の向上
- ・丹波地域における起業・地域づくりの意識醸成・理解促進、異業種・異世代の交流促進・ネットワーク構築、シリ丹バレー推進協議会参加拡大

3 予算額 7,000千円

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 地域共創課	多自然地域づくり専門官 北口 純也	内線296 (直)0795-88-5045

## グローバル丹波2025推進事業

### 1 事業目的

2025年に開催される「大阪・関西万博」に向けて、関係者で課題や情報を共有し、丹波地域におけるフィールドパビリオン（以下「FP」という。）資源を効果的に発信するとともに、万博開催後も資源を活かした取組を持続的なものにしていく。

### 2 事業内容

対象者：FPコンテンツ提供者

オブザーバー：行政、観光協会、関経連、シリ丹バレー推進協議会会員、シンボルプロジェクト関係者、プラットフォームTAMBA関係者 等

#### (1) モニターツアー（現地研修）の実施

丹波地域のFPコンテンツの組み合わせにより創出された体験プログラムの実証的モニターツアーを実施し、成果・課題の共有、意見交換を行う。

〈FPコンテンツ連携創出セミナー〉

- ① 実施時期 4～6月 1回程度
- ② 実施場所 丹波管内
- ③ 実施内容 ワークショップ、モニターツアー対象コンテンツの選定 等

〈実証的モニターツアー（現地研修）〉

- ① 実施時期 7～12月 2回程度
- ② 実施場所 上記セミナーで選定された丹波管内FPコンテンツ提供場所
- ③ 実施内容 コンテンツ体験、成果の共有 等

#### (2) 教育旅行コンテンツフォローアップ

教育旅行コンテンツの造成を推進し、「TEAM EXPO 2025」プログラム共創チャレンジに登録されている「企業版教育コンテンツ集」への掲載を目指してフォローアップを行う。

- ① 実施時期 7～2月 1回程度
- ② 実施場所 丹波管内
- ③ 実施内容 教育関係者との意見交換

### 3 予算額 2,460千円



担当部署	担当者	TEL
県民交流室 総務防災課	班長(企画防災担当) 宇野 真由美	内線213 (直)0795-73-3718

## ⑧ たんばフィールドパビリオンプレ体験事業

### 1 事業目的

丹波地域においては、多自然地域特有の自然風景や暮らしを求め移住者が増加している一方、地元住民は丹波地域の魅力に気づかず、大学進学を機に都市部に出た後、そのまま都市部で就職する若者が多い状況である。また、シリ丹バレー構想においても地域課題の解決や地域資源を活かした事業の創造に取り組んでおり、Uターンや移住者による地域内起業をはじめ、丹波地域においても就業の機会があることを地元住民に対して広く周知する必要がある。

中高生をはじめとする地域住民が、丹波地域のフィールドパビリオン認定プログラムを体験し、地域内で魅力ある事業や地域づくりに積極的に取り組むコンテンツ提供者と交流することにより、丹波地域の魅力の理解促進・シビックプライドの醸成を図るとともに、万博への機運醸成とFPコンテンツの磨き上げを推進する。

### 2 事業内容

#### たんばフィールドパビリオンプレ体験会の実施

- (1) 対象者 丹波地域在住・在学の中高生・その保護者等
- (2) 実施内容 丹波地域内のフィールドパビリオン認定プログラムのプレ体験、コンテンツ提供者との交流
  - \* コンテンツ提供者はプレ体験会の成果・課題を元にコンテンツを磨き上げ
- (3) 実施回数 6回程度（1回あたり認定プログラム3件程度の体験を想定）
  - \* 丹波地域内の認定プログラム19件（R5.12月第4次認定時）

### 3 予算額 1,920千円



担当部署	担当者	TEL
県民交流室 地域共創課	室長補佐兼課長 土井 英樹	内線414 (直)0795-73-3779

## “もりびと” 育成事業

### 1 事業目的

丹波地域の小・中学校及び高等学校において、児童・生徒の発達段階に応じて、ふるさとの自然環境や歴史、文化、特産物等について学習・研究活動を行い、その成果を発表することにより、丹波地域が持つ魅力の発掘や再認識、ひいてはふるさと意識の醸成につなげる。

### 2 事業内容

#### (1) 丹波地域 まちの自慢発信事業

- ① 実施主体：丹波県民局、丹波教育事務所、丹波篠山市教育委員会、丹波市教育委員会
- ② 取り組み内容

##### ア 両市で指定校を選定

[令和5年度の指定校](参考)  
 丹波篠山市立城南小学校  
 丹波市立新井小学校  
 丹波市立青垣小学校  
 丹波市立船城小学校

##### イ 学習成果を発信

[発信形式の例]  
 (ア)「たんばっ子！学びフェスタ」における発表  
 (イ)パンフレット等の作成・配布(管内全公立小学校へ配布)  
 (ウ)報道関係者へ発表

#### (2) 丹波の森若者塾開催事業

- ① 実施主体：(公財)兵庫県青少年本部への委託
- ② 取り組み内容

地域内の高等学校の生徒が、自校の特色を生かせる地域課題に関する研究テーマを設定。丹波の地域づくりに参画する大学の教員、大学生や地域づくり活動を行っている団体のサポートを受けながら、設定したテーマについて研究・体験・交流活動を行い、合同フォーラムで活動発表を行う。

[テーマ例]  
 ・ 地域農業の課題発見とその解決策を探る  
 ・ 地域の特産品等を使用した商品開発  
 ・ 地域行事への参加を通し、地域活性化に貢献し得る活動について学ぶ 等

- ③ 協力大学(予定)：神戸大学、関西大学等

### 3 予算額 933千円

担当課	担当者	TEL
県民交流室 総務防災課	班長(企画防災担当) 宇野 真由美	内線213 (直)0795-73-3718
県民交流室 地域共創課	青少年指導官 芦田 由紀子	内線290 (直)0795-72-5168

## たんばユース躍動プロジェクト -丹波 2050 地域ビジョンの推進-

### 1 事業目的

故河合雅雄先生の理念のもとで実施されている「丹波縄文の森塾」のアドバンスコースとして、次世代を担う中学生、高校生、大学生世代が自然の中で感性を磨き、生きる力、ふるさと意識を再認識する機会を創出する「たんばユース躍動プロジェクト」事業を実施する。

### 2 事業内容

兵庫県立丹波の森公苑をフィールドとして、森の再生を図るために必要な「動物」と「植物」の実態について学ぶ。

「動物」では、丹波地域の動物相の現状と課題を学ぶとともに、同公苑における野生動物の実態・行動を学び、「植物」では、同公苑の植生と野生動物や昆虫相の生息状況との関係性を学ぶ。

これらの学びを踏まえ、同公苑における縄文里山林のあり方を考える。さらに「食べる」という観点から循環的な森の再生の必要性についても考える。

#### 《参考：令和5年度の実践講座》

- ①森の成り立ちと植物の見分け方・検索図鑑を用いた樹木の同定
- ②森が有する現代的役割を考える
- ③野生動物の生息状況の調査方法・センサーカメラの設置
- ④シカ問題を『食べる』から考える・ジビエ料理の体験と試食
- ⑤野生動物の捕獲と食資源化について
- ⑥丹波の森公苑の昆虫相の大捜査
- ⑦シカの食害による植生の変化を理解する・丹波の森公苑内での影響の現状と対策
- ⑧林内散策と秋の森を食べる
- ⑨センサーカメラの回収と設置場所周辺の動物の痕跡の記録・撮影された動画の確認と集計
- ⑩丹波の森の目標(STGs)の提案・丹波縄文の森フェノロジーカレンダー

### 3 実施主体

公益財団法人兵庫丹波の森協会

### 4 予算額 2,094千円

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 総務防災課	班長(ビジョン・丹波の森担当) 阪本 明功	内線217 (直)0795-73-3724

## ㊦ シューベルティアーデたんばの支援

### 1 事業目的

1995（平成7）年に始まった「丹波の森国際音楽祭シューベルティアーデたんば」では、丹波地域全域で長年にわたり「街角コンサート」をはじめとする各種事業が住民主体により展開され、2024（令和6）年には30周年を迎える。

この30周年を記念した「丹波の森国際音楽祭シューベルティアーデたんば実行委員会」による記念コンサートを支援し、シューベルティアーデたんばの更なる定着を図るとともに、2025年大阪・関西万博に向け国際交流の機運を高める。

また、音楽を通じた地域内外との交流拡大、ふるさと意識の醸成を図るため、子供たちと家族、地域住民等が、音楽家等とふれあい、音楽を楽しむ「ふるさと音楽ひろば」の開催を支援する。

### 2 事業内容

#### (1) 丹波の森国際音楽祭シューベルティアーデたんば30周年記念事業（新規）

著名なオーケストラを招聘した記念コンサートを開催する。

#### (2) ふるさと音楽ひろば

##### ア 対象

小学生を中心とする子ども、家族、地域住民 等

##### イ 実施場所

学校施設等を活用し、丹波地域10カ所程度で開催

##### ウ 主な内容

- ・ 音楽家による生演奏を鑑賞
- ・ 音楽についての講話（楽器や楽曲について）
- ・ 児童・生徒、保護者、地域住民による音楽体験（音楽家との共演、演奏体験）
- ・ 児童・生徒の演奏発表及び音楽家による具体的指導

#### (3) 実施主体

丹波の森国際音楽祭シューベルティアーデたんば実行委員会



音楽家との交流



演奏風景

### 3 予算額 1,780千円

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 地域共創課	室長補佐兼課長 土井 英樹	内線414 (直)0795-73-3779

## 丹波2050地域ビジョン推進事業

### 1 事業目的

令和4年3月に策定した「丹波2050地域ビジョン」で描いた望ましい地域の将来像の実現に向けて「シンボルプロジェクト」に選定した12の事業を各プロジェクトチームが主体的に推進していく。また、丹波地域の次代を担う高校生・大学生・新社会人等からなる「第2期たんばユースチーム」を結成し、その提案をプロジェクトの推進に活かしていく。

各プロジェクトチーム、ユースチーム等の活動をつなぐ推進組織として結成した「プラットフォームTAMBA」を運営し、ビジョンの推進に向けた連携、協働を促進する。

### 2 事業内容（令和4年度～）

#### (1) 第2期たんばユースチームの結成

「丹波2050地域ビジョン」で描いた地域の将来像の実現に向けて、高校生、大学生、新社会人等の丹波地域に関わりのある若者が、シンボルプロジェクトへのアイデア提供や、シンボルプロジェクトへの参画、広報等の活動を行なう。

#### (2) プラットフォームTAMBAの運営

12のシンボルプロジェクト毎に結成された産学官民からなるプロジェクトチーム間の連携を促進し、シンボルプロジェクトとたんばユースチームの間をつなぐ地域ビジョンの推進組織として「プラットフォームTAMBA」を運営し、年次計画の策定、各事業目標の設定、成果と課題の共有等にあたる。



たんばユースチームの活動



プラットフォームTAMBAフォローアップ会議

### 3 予算額 5,871千円

担当部署	担当者	TEL
県民交流室 総務防災課	班長(ビジョン・丹波の森担当) 阪本 明功	内線217 (直)0795-73-3724